

秋岡芳夫 工業デザイナー。大量生産・大量消費社会に疑問を投げかけ、独自のものづくりのデザインを開拓した。

あきおかよしお

大暴落・・・1920 = 熊本県下益城郡豊福村大字竹崎で、秋岡梧郎・ツモの長男に生まれる。

原敬首相暗殺 1921 = 1歳：父が単身上京し、文部省図書館員教習所に入所、我が国の図書館近代化に大きな功績を残すことになる。

関東大震災・1923 = 3歳：弟富士夫が誕生。母らと上京するが、関東大震災にあい、父を残して熊本にもどる。

円本時代始・1926 = 6歳：妹京子が誕生。松橋町の豊福小学校に入学。_{コドモノクニ}に親しみ、初山滋に興味をもつようになる。

金融恐慌・・・1927 = 7歳：東京の父の元へ家族とともに上京、震災の被害をさけるため、また家もまばらな目黒に移り、目黒区立油面尋常小学校に1年生から再入学。後にKAKとともに立ち上げる金子至も同校に通っていた。

世界恐慌・・・1929 = 9歳：妹荘子が誕生。

国際連盟脱退 1933 = 13歳：弟伸一が誕生。卒業し、府立第八中学校(小山台高)に入学。

軍国主義の風潮の中、自由な校風で生徒を育てた岡田藤十郎に強い影響を受け、中学2~3年のころにはすでにカメラを持ち、同級生の秋山庄太郎とは、後年、カメラ雑誌で対談することとなる。

健保+総動員 1938 = 18歳：卒業。東京高等工芸学校木材工芸科に入学。自転車を通い、基礎理論から実用学まで幅広く学ぶ。

第二次大戦始 1939 = 19歳：弟邦夫が誕生。

大政翼賛会・1940 = 20歳：優秀な成績を修め、特待生に選ばれる。

日米開戦・・・1941 = 21歳：卒業。東京市役所財務局建築部学校営繕課に技手として就職するも、兵役のため休職。_建築家アルパー・アールトにあこがれ、建築から家具にいたるまでのデザインができればと考えていた。

・・・1942 = 22歳：徴兵検査に甲種合格し工兵第6連隊に入隊。満州で陣地構築に従事し、幹部候補生に採用され、帰国して、松戸の陸軍工兵学校に入学。

年金+総武装 1944 = 24歳：満期除隊後、引続き応召し、近衛工兵第3連隊に所属。_由良玲吉に出会い意気投合、終生の友となる。

敗戦・・・1945 = 25歳：東京大空襲で自宅が消失、応急の住居を自力で建設するも、その後の空襲で全焼したが、家族は無事。陸軍中尉となる。千葉県印旛沼近くで敗戦を迎え、東京都建築課に技手として復職、一気に絵を描き始める。

新憲法公布・1946 = 26歳：依願退職。*商工省工芸指導所の仕事の進駐軍家族住宅用家具のデザインに参画。新聞で日本童画会発足を知り、初山滋に手紙を書いて会員となり、多くの影響を受け始める。指導所の同志らと玩具設計技術協会を設立、由良も加わり、第1回展を開催。洋書から生活や遊び・木についての記事を徹底的に複写、

新憲法施行・1947 = 27歳：東京駅戦災復旧工事の大石膏レリーフの制作に関わる。以後、展覧会に童画を出品したり挿絵を描く。

極東裁判判決・1948 = 28歳：日本童画会が引受けた図書の制作に忙殺され、玩具設計を行い、上野不忍池の児童遊園地計画にも参加。

三大事件・・・1949 = 29歳：10坪自宅の建設開始、職人との共同作業を楽しむ。童画会内で同志と新童画研究会、由良も会員に。

朝鮮戦争始・1950 = 30歳：自宅完成。童画会の委員として、声明文「不正悪徳出版について」を出す。新潮社新人童画賞。

独立回復・・・1951 = 31歳：由良の紹介で文化学院卒の内川芳子と知合い結婚。初山滋が神主を務める。_日本童画会展奨励賞、同会理事となる。輸出ゴム玩具工場の子具デザイナー囁託となり、童画家として不安な収入から脱し、

メデー事件・1952 = 32歳：戦中の縁で、佐藤電気の販売するクライスラーラジオのキャビネットデザインの話が舞い込む。

TV放送始・・・1953 = 33歳：妻と共に、新設の日本銅版画協会会員となる。_商工省工芸指導所で{芸ニュース}編集する金子至と話が進み、由良から紹介された河潤之介を加えて、工業デザイングループ(KAK)を設立、「アイデアを生かした家庭の工作」を刊行し日曜大工を先駆。当初はクライスラーラジオキャビネットの収入で活動。

自衛隊発足・1954 = 34歳：長男陽が誕生。日本版画協会展に出品し会員となる。_(KAK)がセコニックのデザインに着手、

55年体制始・1955 = 35歳：長女マユミが誕生。_長期契約を結ぶが、

国連加盟・・・1956 = 36歳：{ACJ}の誕生で契約終了。以後4年、{学研テスト}の装丁を行う。

なべ底不況・1957 = 37歳：日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)の理事となる。自宅敷地内に、{KAK}の事務所を建設、以後、大切なコミュニケーションの場となって行く。{KAK}が丸正自動車製造とデザイン契約を結ぶ。

イスタラマ・1958 = 38歳：次男欧が誕生。_(KAK)を有会社とし、ミノルタのデザインに着手、カメラ冊子にもよく寄稿。{KAK}の仕事も軌道に乗り、ブルートレイ「あさかぜ」、三菱鉛筆「funi」など、次々ユニークな仕事、

美智子妃・・・1959 = 39歳：「ゼンザプロニカ(D)」。*_連のデザイン活動が評価され、{KAK}が毎日産業デザイン賞。

安保闘争・・・1960 = 40歳：この年、クラフト・センター・ジャパン(CCJ)設立。

TV宇宙中継始 1963 = 43歳：JIDA契約委員会に参加、山本孝造と出会う。_学習研究社の雑誌の付録(教材)を個人的に請け負い画期、

東京おどろき 1964 = 44歳：{KAK}としてデザイン契約を結び、{科学}教材を担当。この頃から大工道具を収集し始める。

大学紛争始・1965 = 45歳：{美術手帖特集:おもちゃ}で、「こどものための大人たち」を執筆。

美濃部都知事 1967 = 47歳：_フリーランスの工業デザイナーのリーダーとして{FD中小企業デザイン機構}発足させ、諸規程定める。

霞ヶ関ビル・1968 = 48歳：_CCJの選定委員に就任、クラフトの振興活動に積極的に関わるようになる。FDの活動も本格化。

全共闘・・・1969 = 49歳：_大量生産と消費の現状に疑問を深めて{KAK}を離れ、{秋岡芳夫事務所(104会議室)}を構えて"会議によるデザイン"を実践し始める。CCJの常任理事。通産省事業で各地の伝統産業のデザイン指導に参加し始める。

大阪万博・・・1970 = 50歳：紙工作に没頭、児童書の付録などに採用。_104会議室でのサロンから{グループモノ・モノ}が誕生。

ドルショック・・・1971 = 51歳：通産省住宅産業品質向上対策委員。「割ばしから車まで」。_104会議室のデザインによる東新プレスの魔法瓶

日中国交回復 1972 = 52歳：_104会議室に工芸品がたまり、ショールームを兼ねたショップが誕生。CCJの常務理事。

石油ショック 1973 = 53歳：師だった初山滋が死去。_Gマーク商品選定審査委員長となる。

角栄金脈辞任 1974 = 54歳：JIDAを退会。通産省伝統的工芸品産業審議会委員。「地方工芸デザインの開発とその推進」で第2回国井喜太郎産業工芸賞。全国の職人との交流が始まる。「デザインとは何か」出版。千葉県から依頼され、

クアンプール事件 1975 = 55歳：通産省デザイン奨励審議会委員。「千葉工芸村(仮称)建設計画案」を提出。「第1回木のモノ展」開催。

田中角栄逮捕 1976 = 56歳：北海道旭川や長野県野沢温泉で、デザイン指導し作り手たちとの交流始まる。

JALハイック 1977 = 57歳：東北工業大学に迎えられ工業意匠学科長。「創(つくる)」「木(しらき)」「住(すまう)」三部作出版。

成田衝突・・・1978 = 58歳：「一人一芸の村」構想を提案。通産省輸出検査及びデザイン奨励審議会委員、

革新大敗北・1979 = 59歳：_日本一の出稼ぎの村といわれた岩手県大野村の工芸コミュニティ計画推進委員となり、

貿易摩擦始・1980 = 60歳：以降、諸誌紙への執筆や全国各地の講演が多くなる。_熊本県伝統工芸館建設への意見書を提出、

・・・1981 = 61歳：HOCCO設立準備委員会が発足し代表。竹とんぼの制作を始め、{竹とんぼの会}を立ち上げる。

中曽根内閣・1982 = 62歳：父が死去。東北工業大学を退任。通産省の伝統的工芸品産業審議会委員。_工芸村構想がふんだんに盛り込まれた熊本県伝統工芸館が開館。大野村での学校給食器開発がスタート、中学校に初めて使用される。

デイズランド 1983 = 63歳：国際竹とんぼ協会を設立。_北海道置戸町の依頼で講演し、「オケクラフト」誕生へ。

・・・1984 = 64歳：「秋岡芳夫展」開催。

ジャンク機墜落 1985 = 65歳：この頃までに、800機の竹とんぼを削りあげた。

リクルト事件・1988 = 68歳：*胃潰瘍で入院して手術を受け、

ソ連崩壊・・・1991 = 71歳：母が死去。

パブル崩壊・1992 = 72歳：竹とんぼ仲間とともにシアトルを訪問し、実演し講演。ボーイング航空博物館に竹とんぼ200機寄贈。

55年体制終・1993 = 73歳：_通産大臣デザイン功労者表彰されるも、

・・・1996 = 76歳：妻・鍛冶職の左久作夫妻とともにイタリア旅行。

金融破綻・・・1997 = 77歳：体調を崩して入院し、_没した。